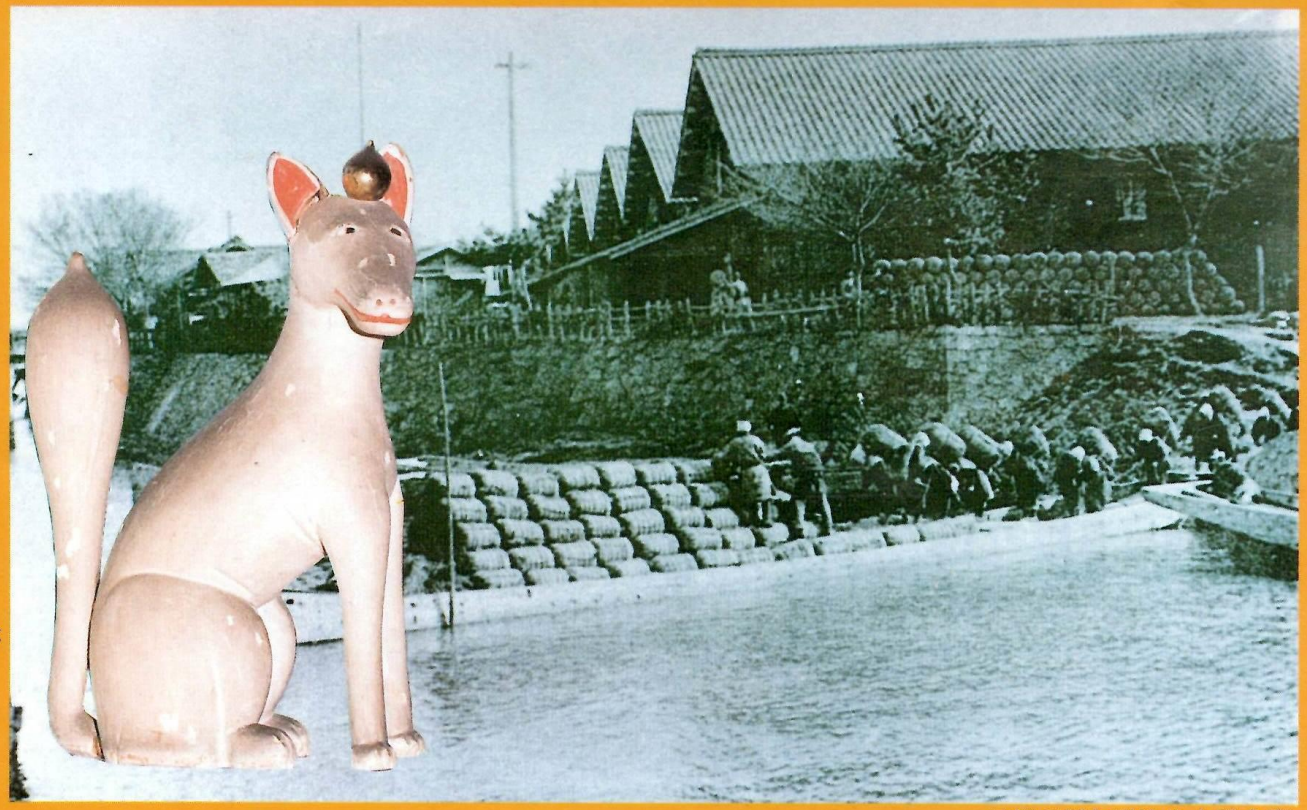
第67回

三居稲荷神社資料展



三居の狐と明治の山居倉庫

開催期間　1991年9月19日(木)～11月10日(日)
開館時間　9時～16時30分
休 館 日　10月31日(木)まで無休、3月末日まで月曜休
入 館 料　大人100円　児童・生徒50円

酒田市立資料館
酒田市一番町8-16　TEL(0234)24－6544

開催にあたって

庄内米の象徴的存在となっている「山居倉庫」（現庄内経済連酒田倉庫）は明治26年に設立され、当初は本間家が出資し、酒井家が経営にあたっていました。翌27年には、その守護神として往時江戸の酒井邸に祀られていた太郎稲荷と禎祥稲荷の二社と従来の山居稲荷を合祀して「三居稲荷神社」が奉斎されました。

以来幾星霜を経て、その加護のもとに遂に日本一の庄内米を作り上げてきたのです。

今回は産米改良に永年努力された先人たちの「お稲荷さん」によせる感謝と祈りの心と共に、絵地口などにみられる庶民のおおらかな心情にも触れていただきたいと願っています。

開催にあたり、山形県庄内経済農業協同組合連合会の方々に厚くお礼を申しあげます。

三居稲荷神社

向い狐

三居稲荷神社の由緒

〔山居倉庫の「三居稲荷神社の由緒」による〕

慶長３年最上義光荘内の地を領するや、其臣栗林新右衛門と云者比の地に移り嘗て信仰する所の稲荷の神霊を負い来り、後に山居の地、其の所有となるに及び、茲に１小祠を営み其神霊を祭る。今の山居稲荷是なりと又一説に、文久12年亀ケ崎足軽小沢重内という者故ありて農となり、山居の地若干を所有者栗林新右衛門より借り受け同志数名と共に開拓に従事せしが、一夜奇夢に感じ、大榎の下に小祠を造営し山居稲荷大明神と称せりと云う。後ち文久の初年酒田町根上善右衛門と云うもの又其附近を開墾せんが田畑狐狸の害を被むること甚しかりしを以て本社の堂宇を修繕し更に伏見稲荷を観請し、崇敬を加へしに、爾後其害を免かれしと云う。

太郎稲荷神社は、旧藩主酒井家の江戸柳原邸内に奉祀せる社にして忠徳公の特に尊崇せられ、難事ある毎に必ず祈願を籠められしと云い、祭典当日の外臣下の参拝を許さざりしが如き以て其の尊厳の一班を窺うるに足る。又禎祥稲荷神社は従一位大納言徳川斉匡郷の特に崇敬せられしを文政12年息女鐐姫（忠発公室）の酒井家に入興せられし際、稲荷と共に尊厳を極めたりと云う。文久３年江戸藩邸引き払いの際両社共に荘内に奉還し遂に当社に合祀せらる。是を似て土人三居稲荷神社と称せり。

其後歳月を経るに従い人家の移住するもの漸く多く山居町と称する一部落を成し、20有余戸の氏子を有するに至り、明治12年９月格社する。明治26年旧藩主酒井家の経営になれる酒田米穀取引所に於いて山居谷地を購入し新に倉庫を設立するに及び、稲荷神社も又其地内にあるを以て鎮守神とした。明治27年７月８日酒井家の太郎稲荷、禎祥稲荷と従来の山居稲荷神を合祀し遷座式を行った。之を三居稲荷神社と稱する。

絵地口と土屋鴎涯

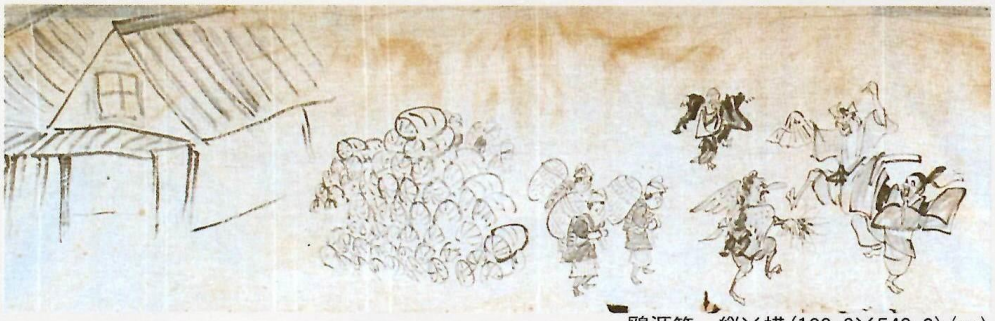
山居倉庫の三居稲荷神社の夜会式（よえしき）は、毎年９月７日、８日の両日に渡って行われる。夜会式は酒田独特の夏祭りで、三居稲荷でも参道に地口行灯（くちあんどん）がさがる。山居倉庫の板屏（じ）に土屋鴎涯の鳥羽絵風の幕が張られ、夜になると火が灯り、見事な絵が浮びだされ、祭りが賑う。

地口行灯や絵地口には、絵に川柳を書いたものが多く、「地口」とは洒落の一種で、例えば『案ずるより生むが易い』をかりて「杏は梅より安い」というような語呂合わせのことである。

三居稲荷の鴎涯の筆になる絵地口は、見る人に心地良いユーモアを感じさせ、漫画というか戯画と呼ぶにはふざけてもいず、時世を諷刺したものが多い。

鴎涯は慶応２年庄内藩士土屋伊教の長男として鶴岡に生まれた。幼名を正太郎、親秀、鴎涯は号である。

大正２年まで裁判所に勤務し、晩年は酒田本立銀行に勤務した。幼少より絵が巧みであった鴎涯は文人と交わって見聞を広め、鳥羽絵風な絵を描いた。昭和13年７月29日、73歳で歿した。



鴎涯筆　縦×横（100.0×540.0）〈cm〉

鴎涯筆　縦×横（100.0×300.0）〈cm〉

お稲荷さんの狐

三居稲荷神社神殿前には、神の遣わしめとして白い狐が向かい合って台座にある。ふっくらとした愛嬌のある狐で深緑と朱で狐の耳や宝珠が彩られている。向かって左が宝珠を頭にのせ、右が口に鍵をくわえている。江戸末期に「穴稲荷」が流行したころ、宝珠は財産を意味し、鍵は穴蔵を開き財宝を得る幸運の鍵とされていた。根本的には五穀豊穣を祈るものであろうが、その信仰は中世以来仏教にいう荼枳尼天（ダキニテン）と習合して祭神自身と同一視されるなど庶民の発想の洒落気と連想の豊かさも手伝ってご利益も拡大されていった。

すなわち、奉納絵馬に見られる白狐の「向かい狐」をはじめ、稲の豊穣繁殖が人間の生殖繁栄にかけて宝珠は子宝を意味し、口にくわえた鍵は子宝の庫を開ける鍵だと解釈され、そこから鍵をくわえている方が雄狐だというふうに「お稲荷狐」は庶民の親しみのある感覚の中にすっかり溶けこんでいくのである。

鴎涯筆　縦×横（100.0×580.0）〈cm〉

鴎涯筆　縦×横（100.0×540.0）〈cm〉

三居稲荷の地口行灯

福来留　地口行灯